

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地		
日本電子専門学校		昭和51年9月10日	古賀 稔邦		〒169-8522 東京都新宿区百人町一丁目25番4号 (電話) 03-3363-7761		
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地		
学校法人電子学園		昭和38年12月17日	多 忠貴		〒169-8522 東京都新宿区百人町一丁目25番4号 (電話) 03-3363-7761		
目的	情報システム開発企業と連携し、業界のニーズや最新の技術動向、プロジェクトマネジメントなどを学ばせることにより、実務に即したシステム開発の実装技術と全工程を管理する能力を持ったエンジニアの育成をする。						
分野	課程名		学科名		専門士	高度専門士	
工業	工業専門課程		情報システム開発科		平成7年文部科学大臣告示第7号	—	
修業年限	昼夜	総授業時数	講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1770	960	0	810	0	0
単位時間							
生徒総定員		生徒実員		専任教員数	兼任教員数	総教員数	
160人		98人		4人	5人	9人	
学期制度	<ul style="list-style-type: none"> ■前期: 4月1日～9月30日 ■後期: 10月1日～3月31日 			成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 評価基準は、90点以上を秀、80点以上90点未満を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可、59点以下を不可とする。 成績評価は、試験、平常の成績、成果物等により行う。 		
長期休み	<ul style="list-style-type: none"> ■学年始め: 4月1日 ■夏季: 8月1日～9月10日 ■冬季: 12月21日～1月9日 ■春季: 3月21日～4月6日 ■学年末: 3月31日 			卒業・進級条件	<ul style="list-style-type: none"> ■卒業条件 学科の教育課程に定められた必修科目(選択必修科目を含む)のうち、卒業学年までに履修しなければならない科目を修得(成績評価が可以上)した者。卒業条件に該当しない者は、原級留置とする。 ■進級条件 学科の教育課程に定められた必修科目(選択必修科目を含む)のうち、当該学年までに履修しなければならない科目を修得(成績評価が可以上)した者。 		
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ■クラス担任制: 有 ■長期欠席者への指導等の対応 電話・メール連絡、個人面談 自宅訪問、保護者連携 			課外活動	<ul style="list-style-type: none"> ■課外活動の種類 各種展示会見学 学園祭、体育祭 ■サークル活動: 有 		

就職等の 状況	■主な就職先、業界等 NTTデータ・アイ、セゾン情報システムズ、JR東日本情報システム、TEPCOシステムズ 等システム開発業界、IT業界	主な資格・ 検定等	応用情報技術者 基本情報技術者 UML技術者資格 オラクル認定Javaプログラマ オラクルマスター
	■就職率 ^{※1} : 100 %		
	■卒業者に占める就職者の割合 ^{※2} : 100 %		
	■その他 (平成 27 年度卒業者に関する 平成28年5月1日 時点の情報)		
中途退学 の現状	■中途退学者 5 名	■中退率 6.1 %	
	平成27年4月1日 在学者 82 名 (平成27年4月1日 入学者を含む) 平成28年3月31日 在学者 77 名 (平成28年3月31日 卒業者を含む)		
	■中途退学の主な理由 学習上の理由、健康上の理由		
	■中退防止のための取組 担任制、キャリアセンターサポート体制、新入生準備教育、学習目標設定・管理、個人面談、保護者連携、出席管理、学生相談、カウンセリング、自宅訪問		
ホームページ	URL: http://www.jec.ac.jp		

※1「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」の定義による。

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものとす。

②「就職率」における「就職者」とは、正規の職員(1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいう。

③「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

(「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。)

※2「学校基本調査」の定義による。

全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。)

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

実務に即したシステム開発の実装技術と開発の全工程を管理できるシステムエンジニアを育成するため、情報システム開発企業と連携し、以下の①～③を踏まえた教育課程の編成、新規科目の検討、既存科目の内容と教育手法の改善、教材の開発など、実践的かつ専門的な職業教育について協議・検討をする。

- ① 情報システムの実装技術に関する最新技術の動向。
- ② 開発を計画通りに進めるための、プロジェクトマネジメント能力を身に付けさせる教育手法。
- ③ 情報システムの実装技術(要求分析・設計手法・品質管理技法)のカリキュラム。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成28年5月1日現在

名 前	所 属
成井 弦	LPI-Japan(エルピーアイジャパン)
松島 太	株式会社TSOne(ティーエスワン)
古賀 稔邦	日本電子専門学校 校長
杉浦 敦司	日本電子専門学校 教育部 部長
佐々木 卓美	日本電子専門学校 教務部 部長
船山 世界	日本電子専門学校 キャリアセンター センター長
大川 晃一	日本電子専門学校 情報システム開発科 学科長

(開催日時)

第1回 平成27年9月17日 14:00～16:00 開催

第2回 平成28年3月 3日 14:00～16:00 開催

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

システム開発の全工程を管理できるシステムエンジニアを育成するため、情報システム開発企業と連携し、Java言語を使ったプログラミング手法や、チーム開発のマネジメントに関わる指導を受け、最新の技術を身に付けることを基本方針とする。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
卒業制作	現場でプロジェクトマネジメント業務に携わっているエンジニアより、スケジュールの立案についてのポイント、チームマネジメントに必要な技能、知識の指導を行う。また、作成したシステム・スケジュール・設計書についてレビューを通して指導を行い、最後は作品評価を行う。	NECネクサソリューションズ株式会社

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

学校関係者評価委員会の分野別分科会、ならびに教育課程編成委員会の意見や検討内容の他、情報システム開発業界の動向をもとに、現在教員に不足している知識、技術、技能に関する研修や、教育的資質に関する研修を研修規定に則って実施する。

これまでは、情報システム開発業界ならびにITに特化した企業が主催する研修に参加していたが、今後は更に連携する情報システム開発企業や団体から講師を招き、最新の技術・知識を習得するための研修を計画・受講し、授業への展開やオリジナル教材等にも反映させることを基本方針とする。

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成28年5月1日現在

名 前	所 属
石本 則子	株式会社スタジオフェイク
井沢 祐	株式会社スタジオフェイク
内田 昌宏	株式会社 ラック
乗浜 誠二	株式会社 ナレッジコンスタント
舟山 大器	株式会社横浜環境デザイン
尹 剛志	株式会社++ (シット)
浅賀 央起	株式会社ぴえろ
川崎 紀弘	株式会社AZホールディングス
渡辺 登	株式会社アフレル
満岡 秀一	一般社団法人 Open Embedded Software Foundation
宮井 あゆみ	公益社団法人画像情報教育振興協会 (CG-ARTS協会)
中台 浩正	東京商工会議所 新宿支部
原 洋一	一般社団法人 コンピュータソフトウェア協会
米井 翔	一般社団法人 組込みシステム技術協会
長崎 晶彦	東京都立 荻窪高等学校
勝間田 清一	私立 明星学園高等学校
沼田 宏	株式会社インターカルト日本語学校
小澤 博太郎	百人町西町会
中山 秀昭	卒業生 株式会社 ヴァル研究所
谷 伸城	卒業生 株式会社アプリケーションプロダクト
二俣 久美	保護者
秋永 美穂	在校生
大宮 晃平	在校生
宜保 吉弥	在校生

(学校関係者評価結果の公表方法)

:URL:<http://www.jec.ac.jp/school-outline/disclose/occupation-practice.html>

5. 情報提供

(情報提供の方法)

ホームページ、広報誌等の刊行物、その他(授業成果発表会、進級・卒業制作発表会、学科ニュース)

URL:<http://www.jec.ac.jp>

授業科目等の概要

(工業専門課程 情報システム開発科) 平成28年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任		
○			ハードウェア	情報処理技術者試験制度における「基本情報技術者」試験対策として、コンピュータの基本的な構成要素とCPUやメモリ動作原理、コンピュータ内部でのデータ表現、補助記憶装置の種類や特徴などを学習します。また、ネットワークの初歩についてもあわせて学習します。	1前	60		○			○					
○			ソフトウェア	情報処理技術者試験制度における「基本情報技術者」試験対策として、ハードウェアを多様な目的に活用する手段であるソフトウェアの体系と種類、オペレーティングシステムの役割と機能などについて学習します。また、システム戦略やデータベースの初歩についても合わせて学習します。	1前	60		○			○			○		
○			ITストラテジ&ITマネジメント	情報処理技術者試験制度における「基本情報技術者」試験対策として、企業の経営戦略・システム戦略等のITストラテジ分野やプロジェクト管理等のITマネジメント分野の技術を学習します。	1前	30		○			○			○		
○			アルゴリズム	プログラミングに必要な論理的手順の考え方を学習します。コンピュータで利用できる基本機能は限られています。課題を解決するために基本機能をどのように組み上げればよいか、定石も含め、自分自身で考えを組み立てられる力をつけることを目指します。	1前	120		○		△	○			○		
○			HTML	2年次の科目、Webアプリケーションにおいてユーザインタフェースの役割を果たすのにHTMLが使われます。そこで使用されるHTMLの機能を学習します。なかでも、Webサーバとデータのやり取りを実現する方法を重点的に学習します。	1後	30					○	○		○		
○			CSS&JavaScript	Webシステムを構築するにあたり、従来の静的な表現では補完できない処理機能を解決するスクリプト言語について学習します。また、スクリプト言語を使い、Webページを操作するためのCSSの理解を深めます。卒業制作で作成するシステムのインターフェース部への導入を目指します。	2前	60					○	○			○	
○			セキュリティ	情報処理技術者試験制度における「基本情報技術者」試験対策として、アクセス制御、暗号化制御、外部からの侵入検出と防御などの情報セキュリティの概念について学習します。情報処理に必要な基数変換や、論理演算、集合なども合わせて学習します。	1前	30		○				○		○		
○			ネットワーク	通信ネットワークの役割、機能および基礎技術に関する基本的知識、およびLANの基礎技術やインターネットの仕組みなどを学習し、特にアプリケーションに関連するネットワーク上位層の機能を修得することに努めます。また、Webシステムを構築する上でのセキュリティ対策についても学習	1後	30		○				○		○		
○			Java基礎	ハードウェア非依存の実行環境を持ち、オブジェクト指向という新しい考え方を取り入れた言語であるJavaについて、その概念と基本的プログラミング技術を、実習を通して修得します。クラスの継承関係、インターフェース、ポリモフィズムなどに関して学習します。	1後	150		○		△	○			○		

○		J a v a 応用	これまで学習してきたJavaのプログラミング技術をもとに、マルチスレッドプログラミング、ファイル入出力技法、ネットワーク接続プログラムなどのプログラミング技術を修得します。	2 後	60		△	○	○	○								
○		W e b プログ ラミング	Webアプリケーションの開発技術について、PHPを用いて学習します。また、静的なWebページではなく、対話的なWebページを表示する技術などを学習します。その際、必要となるデータベース操作の連携技術も学習します。	2 前	90		△	○	○	○								
○		サーバサイド Java	Webシステムの開発を通して、JSPやサーブレットのプログラミングやオブジェクト設計技術を修得します。また、MVCの設計モデルを理解し、高度な技術修得を目標とします。	2 前	90		△	○	○	○								
○		V B A	VBAとは、Microsoftのアプリケーション独自のマクロ言語用に作られたプログラミング言語です。WordやExcelをはじめとするOfficeのアプリケーションで利用できるもので、定型業務を効率化することができます。この手法を学び、実務で利用できるビジネスリテラシーを修得します。	2 後	30			○	○	○								
○		Android プロ グラミング	Javaを利用して、Androidのアプリケーション開発を行います。ガジェットなどの小規模で、比較的簡単なアプリケーションの開発を通して、ボタンやキー操作などのイベント処理を学習します。	2 後	30			○	○	○								
○		システム設計 I	情報処理技術者試験制度における「基本情報技術者」試験対策として、情報システムの設計・開発の手順およびシステムの計画、設計、開発、テストおよび運用までの各工程での作業と、そこで用いられる手法について学習します。	1 前	30		○	○	○	○								
○		システム設計 II	「システム設計 I」で学習したシステムの計画、設計、開発に関する知識を、演習などを通じて確実なものにします。特にシステム開発における外部設計までの上流工程で使用される様々な技法を、自在に駆使できることを目指します。	1 後	60		○	○	○	○								
○		オブジェクト 指向設計	オブジェクト指向設計に必要な知識と技術を、表記法としてUMLを使用して学習します。開発のプロセスとモデリングの種類、モデリングの技法をUMLの表記法とともに学習します。システムの中のオブジェクトを明確にし、クラスとして表現するなど演習します。	2 前	60		○	△	○	○								
○		システム分析 設計演習	「システム設計 I、II」で学習した内容をもとに、特にシステムの業務分析、要求仕様策定を重点にケーススタディ方式で演習・実習します。ユーザインタフェースなど設計に必要な様々な事柄に関しても学習します。	2 前	60		△	○	○	○								
○		S Q L	SQLはリレーショナルデータベースを操作する言語です。SQLを用いてテーブルの作成、検索および更新などに関して、実習を通じて学習します。データベースの操作の実習を通じて、データベースの概念や効率のよいデータベースの操作方法を修得します。	1 後	60		△	○	○	○								
○		データ ベース 設計	正規化技法、リレーショナルデータベース設計や、コード設計などをケーススタディを通じて学習し、大規模データ管理の実装を想定したデータベース設計の基本概念を学習します。	2 前	30		○	○	○	○								

○		資格対策言語	事務処理用言語COBOLを使用し、資格試験に出題されるプログラムの基本的パターンを実習しながら学習します。事務処理プログラミングの基本だけでなく、プログラミング一般の基礎を学習し、基本情報技術者試験の午後問題を解答する力を養います。	1 前	120		○		△	○		○					
○		資格対策講座 I	10月の基本情報技術者試験の合格を目指し、直前対策を実施します。また、試験後は試験の結果により、基本情報技術者試験対策と応用情報技術者試験対策に分かれ、2年次4月の試験へ向けて対策を実施します。	1 後	30		○			○		○					
	○	資格対策講座 II	基本情報技術者試験や、応用情報技術者試験、ベンダ資格試験の対策を実施します。就職活動や就職後に役立つ資格の取得を目指して学習します。	2 前	30		○			○		○					
○		資格対策総合 演習	情報処理技術者の資格取得を目指して学習します。特に直前に学習したハードウェア、ソフトウェア、システム設計等の知識を定着するため、午前試験の問題演習を中心に行い、様々なパターンの問題に慣れる授業です。	1 前	30		○			○		○					
○		資格対策言語 講座 I	前期に学習したCOBOLのプログラミング技術をもとに、基本情報技術者試験午後問題に向けた試験対策をさらに進めます。演習問題を中心に学習し、より一層の解答力アップを目指します。	1 後	30		○			○		○					
○		資格対策言語 講座 II	2年次の基本情報技術者、午後試験に向けた試験対策をおこないます。特に言語問題にターゲットを絞り、演習問題を繰り返し解くことで、解答力アップを目指します。また、OracleJava等のベンダ資格の対策授業も実施します。	2 前	30		○			○		○					
○		資格対策集中 講座 I	2年次の基本情報技術者、午後試験に向けた試験対策をおこないます。特に言語問題にターゲットを絞り、演習問題を繰り返し解くことで、解答力アップを目指します。また、OracleJava等のベンダ資格の対策授業も実施します。	1 前	15		○			○		○					
○		資格対策集中 講座 II	主に2年次春季休暇時に行う集中授業です。1日かけた模擬試験を中心とし、解説・類似問題の演習を繰り返すことで、合格に向けた最後の調整を行います。	2 前	15		○			○		○					
	○	高度資格対策 ゼミ	学生自身が目標となる資格を設定し、就職活動や就職後に役立つ資格の取得を目指して学習します。特に応用情報技術者試験以上の高度試験や、ベンダ資格試験の受験対策を実施します。	2 後	60					○	○		○				
○		卒業制作	企業の根幹を担う業務システムを、グループ作業で開発します。その際、Webアプリケーションを利用します。システムの計画、設計、開発および運用までの全工程を体験し、設計書類をレポートにまとめます。構築対象システムは、学生自身が設定します。	2 後	180				△	○	○		○				○
○		先端 I T 技術	ソフトウェア開発にまつわる様々なトピック、ソフトウェア開発の過程、テスト技法、クラウドコンピューティング、ビッグデータの活用などに関して学習します。2年次後期に実施する卒業制作と連動して、ソフトウェア開発工程全体を見渡します。	2 後	60				△	○	○		○				

○		ITエキスパートゼミ	学生自身がテーマを設定し、研究・開発し、論文にまとめます。研究対象に選ぶテーマは、学生個人が興味をもっている技術や就職内定先で使用する技術など自由に設定します。そのテーマに関して基本的に自力で研究し、調べる能力をつけます。	2後	60			○	○	○		
○		就職活動リテラシー	就職活動で必ず行われる書類審査や面接などに備え、万全の準備を行うワークショップです。ワークシートやグループワークを利用した体験型学習で、楽しみながら就職活動の準備を行います。	1後	30		○		○		○	
○		プレゼンテーション技法	論理的な流れで発表資料をまとめることができるように学習します。特定のテーマについて調査やインタビューを行い、プレゼンテーションソフトを用いて、主張したい内容がはっきりとわかるように資料を作成する技能を身に付けます。	2前	30			○	○		○	
合計				34科目		1890単位時間(単位)						

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件 「可」以上 (留意事項)	試験、提出課題、平常点を加味した成績評価において、全ての科目で	1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	15週

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。